

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4590100774		
法人名	社会福祉法人 信和会		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	宮崎市大字島之内2752番地		
自己評価作成日	令和2年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和2年10月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

事業所周辺は、田畑が多くあり、自然の中でゆっくりと生活が送れる環境である。少し足を延ばすと商店や駅があり、必要物品の購入や交通手段も整っている。敷地内には特別養護老人ホームやデイサービス等があり、事業所が孤立せず他部署からの協力を貰える体制が整っている。夜間帯は、警備保障会社のセキュリティにて安全確保を行い、警備保障会社の火災監視システムを導入する事で火災の際の応援体制も整っている。事業所内は木材の温かみを感じる事が出来る造りとなっており、天井は吹き抜けで圧迫感を感じる事無く生活出来る共有スペースを確保している。外出支援、その方が生まれ育った地域への訪問や交流を大切にしながら生活を送ってもらっている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所「スマイル理念」は毎年職員間で話し合いを行い、現在は「その人らしい生活を大切にします・地域との関わりをたくさん持ちます・認知症について学ぶ姿勢を持ちます」として、日々のケアの中で意識できるようにしている。法人、管理者は職員の声に耳を傾け、運営やケアの方法について検討している。地域の方にホームについて更に知ってもらう機会としてサロンに出向き、認知症介護に関する情報提供を行ったり、相談に応じる等の活動も行っている。情報収集では「認知症の人のためのケアマネジメント方式」を活用し、家族からの情報も得て、なじみの暮らしの把握を行うように努めている。その結果介護計画書が具体的であり、入居者一人ひとりの生活や役割に目が向けられている。感染症対策の充実を図りつつもホームでできる事が無いか管理者、職員は模索し検討している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とスマイル独自の理念を掲げ、誰もが見れる場所に掲示し、理念については、定期的に話をし、自分達のケアの中で迷った時等は職員間で話し合いを行い、理念に立ち返りケアが実践出来る様にしている。	職員の間で話し合いのもとにスマイル独自の理念を掲げている。迷った時は、理念を振り返り入居者の立場になってケアができる様にしている。毎年職員間で見直し、その理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーへ買い物へ出掛けたり、地域の文化祭や福祉祭りへの参加をしている。近隣地域のサロンへ参加もしている。又、入居者個々の生まれ育った地域への訪問や交流も行っている。	事業所と地域との交流は、近隣のスーパーや地域サロンの利用をしている。今年は自治会主催の文化祭、福祉祭りの開催が行われていないが、これまでは団体での訪問や交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣地区のサロンへ出向き、認知症の方に対する取り組みやグループホームについて話す機会を設けている。地域住民の方に対し、認知症の予防について話をする機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子や取り組み、利用者に関する事項等、資料を作成し毎回、報告を行っている。資料を参照してもらい、ご意見を頂ける環境を整えている。	運営推進会議は感染防止のために開催ができていない。以前は、資料の配布を行い、意見をもらえるように配慮がされている。今後再開することが決定している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内において発生した課題や取り組みについて不明な点、助言を頂きたい際には担当者へ連絡を行い、対応、解決出来る様に取り組んでいる。	市の担当者とは連絡を密に取り、協力関係ができています。事業所内で発生した課題や取り組みについて、不明な点は連絡を取り、相談や助言を受ける体制ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に勉強会を実施している。事例をもとにどのような事が拘束にあたるか具体的にピックアップし、勉強会で学んだ事を直ぐに現場で実践出来る様にし、場面毎の指導も行っている。	定期的な勉強会では、具体的な事例を基に研修を行い、日々の業務に反映できるように取り組んでいる。職員間での意見交換などにより、ケアに対する前向きな姿勢を感じることができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加を行い、参加した職員からの伝達講習を行っている。スマイル勉強会の年間計画にも盛り込み、職員間で情報が共有出来る様に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について、学ぶ事は少ないが、制度が必要な方がいないか、活用されている入居者の方には後見人との関係性を築く事が出来ている。ご家族等の現状を把握し、必要性がある場合にはそれらを活用出来る様に支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、利用者やご家族の不安、疑問点等を聞く様に配慮している。契約や解約、改定等の際にはご家族へ十分な説明を行い、納得、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	いつでも意見や要望が伝えられる様に日頃から、利用者やご家族との信頼関係が構築出来る様に努めている。ご家族間で交流や意見交換が出来る様に毎年、家族交流会の場を設定し、頂いた意見に対しては今後のサービスへ繋げる事が出来る様に取り組みを行っている。	家族間で交流や意見交換が出来るように、家族交流会の場を設定している。運営に関する入居者、家族等の意見の反映をし、インターネットを活用した意見交換や家族との面会ができています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部署会議や必要に応じて会議を開催し、意見や提案を聞く機会を設けている。事業所内にて解決が難しい事項や改善を要する事項に関しては、代表者からの助言を頂いている。	職員意見の反映には月1回の部署会議を開催している。解決が難しい事項や改善を要する事項に関しては、代表者からの意見を聞いて解決につないでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日頃の努力や勤務状況、各自が向上心を持って働ける様に個別で話し、報告を行う環境が整っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修会へ参加する事が出来る機会を確保し、職員の経験年数等に応じた研修会への参加も出来る体制が整っている。又、自ら参加したい研修や資格取得等の申し出があった際には勤務の調整等を図れる様に配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内職員との交流会や勉強会への参加を行い、交流を図る事が出来ている。宮崎県のグループホーム協会へ入会しており、研修会や意見交換会の機会があれば積極的に参加を行い、サービスの向上が出来る様に取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人が困っている事や不安を感じている事が聞ける様な配慮を行っている。本人の意見に耳を傾けながら安心して入居して頂ける様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった段階でご家族や本人との面接・施設見学を行っている。その際に、ご家族が困っている事や不安な事を聞き取れる様に心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・担当の介護支援専門員等との面談を通して本人が必要としている支援を見極める事が出来る様な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と過ごす時間を大切にしている。一緒に過ごす時間の中で、本人の喜怒哀楽に寄り添い、お互いの関係が構築出来る様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会出来る事をご家族へ伝えている。本人とご家族がいつでも過ごせる時間を大切にしている。ご家族間や本人との関係性を早い段階で汲み取り、関係性が悪化しない様に支援している。又、面会時には近況報告を行い、ホームでの生活の様子を伝える様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や本人からの情報をもとに、本人が以前生活していた場所や地域への訪問・馴染みの店や人との交流を実践してきている。ご家族の協力も頂き、故郷訪問やドライブ・食事の実践する事が出来ている。又友人・知人との手紙のやり取りや電話等も行い、関係が途切れない様に支援している。	本人からの情報に加えて、家族からの話を聞く機会を設け、馴染みの関係や場を把握するように努めている。また手紙や電話のやり取りなどで支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での関係性を把握し、利用者が孤立しない様に職員が間に入り、作業やレクを通して関わりが持てる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後にも困った事があった際やホームへ来られたり、電話連絡にて対応した経緯がある。退所した際には、施設や病院への訪問も行っており、契約終了後もフォローが出来る様な関係性を構築しており、いつでも連絡が取れる体制も整えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の表情や行動・ご家族からの情報をもとに意向の把握に努めている。又、困難な場合においては、生活を送る中で馴染みの関係を構築し、表情や動作から汲み取る様に心掛けている。本人の希望や意向を聞き取れる様にしている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人の表情や動作から汲み取る様に努力している。温泉に入りたいとの希望を個別に対応したことがある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当していた介護支援専門員・施設関係者・ご家族・親族・本人からの情報をもとに生活歴や馴染みの暮らし等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録や各チェック表等を活用し、現状の把握に努めている。又、職員間での情報を共有出来る様に申し送りの徹底や申し送りノート等の活用も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族・親族からの情報や担当職員からの情報をもとに意見を集約し、介護計画を作成している。定期的な見直しと状態変化があった際の見直しも行っている。	本人・家族や必要な関係者と話し合い、現状に即した計画を作成している。アセスメントでは「認知症の人のためのマネジメントセンター方式」を部分的に活用し、具体的な支援内容を計画に位置付けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録を活用し、気付いた事や取り組んだ内容・ご家族とのやりとり・医療機関受診時の情報等を日々の記録として残している。生活日誌や個人ファイルを活用し、職員がいつでも閲覧出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況を踏まえて、その時のニーズに応じて法人内・外への相談が出来る体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民からの協力を頂きながら、本人が出来る事を見極め、地域の中で生活が送れる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を大切に、入居後も継続出来る様に配慮している。夜間の急変、それ以外の突発的な病状変化の際の対応方法についても個々のかかりつけ医との連携が図れる様にしている。いつでも相談・対応が出来る様な関係性も構築出来ており、状況に応じた医療を受ける事が出来る様に支援している。	定期的な受診は家族が対応し、必要な情報は、書面で共有できる様にしている。確認したい点などがあれば、ホームから直接かかりつけ医に問い合わせを行い、必要な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内に看護職を配置し、病状変化や気付いた事等を報告する様にしている。又、事業所内の看護職不在で緊急を要する場合には、敷地内の看護職へ相談・応援を受けられる応援体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個々のかかりつけ医との連携が図れる様に日頃から本人の情報を提供するとともに、事業所側が相談したい事項については、直ぐに相談出来る環境・体制が整っている。医療機関と事業所との関係性も構築出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際には、事業所で出来る事と出来ない事を明確に説明し、同意を頂いている。又、本人の状態に応じて、ご家族にはその都度、話し合いの場を設けている。重度化した場合の指針を作成し、事業所で出来る事をご家族へ説明出来る体制も整っている。	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援に関して、契約の際に事業所で出来る事と出来ない事を明確に説明し、本人・家族の同意をもらっている。心身の状況に応じて、適切な介護や医療サービスが受けられるよう相談や見学などにも対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員間で話し合いを行い、事業所・かかりつけ医との連携も含めマニュアルを作成している。マニュアルは、職員がいつでも見れる様に掲示し、ファイルに綴じている。応急手当、初期対応については、定期的に勉強会を開催し、繰り返し学べる環境を整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な年2回の災害避難訓練以外に、火災・地震・津波等の訓練を実施している。事業所内において、月1回の勉強会を開催しており、各事業所との月1回、必要に応じて定期会議・訓練等の開催を実施している。各事業所と情報を共有する事により、実際に災害が生じた際に協力出来る体制が整っている。又、地域住民の方との災害時における連絡体制も構築出来ており、協力が頂ける体制が整っている。	「災害対策年間勉強会」を作成し、年間を通じて災害対策の意識向上を図っている。隣接する特別養護老人ホームや地域との協力体制が構築されている。備蓄品の備えがあり、安心感が持てるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けているが、出来ていない場合においては、職員間で声を掛け合い、プライバシーを損ねないケアを心掛けている。	排泄介助時等、声掛けの内容や方法に配慮し、プライバシーや尊厳を損ねないように留意している。居室のドアは廊下から直接見えないように通常は閉めている。またそれぞれが好みの場所で過ごせるように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話や余暇時間、個別対応の中で本人の希望や好みを聞き出し、出来る限り本人が自己決定を出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で利用者側の視点に立ち、望んだ生活の実現に向けて、現在も業務改善を実施し取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が着用したい衣類の選択や購入を行っている。外出時や行事等への参加の際には化粧や衣類を着替えたり、おしゃれや身だしなみを整える事が出来ている。その方の生活歴を大切に、化粧が日課となっている方への支援も出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で好みの食べ物や食べたい物等を聞き出し提供出来る様にしている。食事の準備・片付け・調理等、個々が出来る事を把握し、役割を持って実施して貰っている。	一人ひとりの会話の中で、好みの食べ物や食べたい物等を把握をしている。数人で買い物に行ったり、調理や後片付けは役割分担を行ったりしている。又飲み物を自己選択できる機会を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の情報をもとに食事摂取量や普段の食事の様子・嗜好等を確認している。個々の生活習慣を大切に、使い慣れた食器の持ち込みや飲みたい物・食べたい物を選択出来る様な工夫を行っている。体調の変化や摂取量に変化があった際には法人内の栄養士へ相談が出来る体制を整えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に応じた口腔ケア物品を使用し、毎食後の口腔ケアを実施している。その時に拒否が聞かれる利用者に対しては時間をおいて再度声掛けを行ったり、時間を決めずにその方のペースで口腔ケアが実施出来る様に工夫をしている。職員は、口腔内の観察を行い、異常があった場合には歯科医への相談を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄ケアにおいて気付いた点等の情報を職員間で共有する事により、自立してトイレでの排泄が出来る様に取り組みを行っている。排泄のパターンや習慣を活かし、尿取りパットの使用が減ったり、トイレでの排泄が出来る様になった利用者の事例もある。	入居者が利用できるトイレが3か所あり、順番待ちをすることなく、自立した排泄が出来る環境である。職員は入居者ごとの心身機能や尿意便意の把握を行い、必要最小限のパットの使用で済むように工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、普段の生活において、運動や水分補給・食べ物の工夫等を行い、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴したい日、入りたい時間に入浴が出来る様に配慮している。入浴時には個々の入浴ペースや気持ちよく入浴が出来る様な環境を整えている。又、入浴拒否のある方に対しては、自宅での様子や拒否される原因を探り、個々の使用物品を持ち込んで貰う等、個々に沿った支援を行っている。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、入浴したい日、入りたい時間などに配慮をしている。これまでに本人の希望に合わせて、温泉に行く機会を設けたこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を大切に、休息出来る時間を設定する等の配慮をしている。日中は活動的に生活を送って頂き、夜間は、安眠出来る様な環境を整える等の工夫を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、全ての薬において、把握する事は出来ていないが、いつでも、誰が見ても分かる様にファイルを作成し、閲覧出来る様にしたり、内服の変更があった際にはどの様な目的で処方されたのか分かる様に申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や生活状況、本人の希望を大切に、得意な事を活かしたり、本人の役割や楽しみごとの1つになる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中で希望を聞き取ったり、戸外に出掛けたり、故郷ドライブ・買い物・外食等の支援がその日、その時に実施出来る様な体制を整えている。場面に応じてご家族の協力も頂き、出来る限り本人の希望が実現出来る様に取り組んでいる。	日常的な外出支援ができるように、家族や地域の協力も多くあり、できる限り本人の希望が実現出来るように取り組んでいる。近隣にあるホームのスマイル畑や堤防へ散歩を行うことがある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が希望される方は、ご家族への相談を行い、個人の財布を準備して頂いている。個人の買い物の際には本人が支払い出来る様に職員間で話をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じていつでも電話を掛ける事が可能となっている。友人やご家族からの手紙は、本人へ手渡しをし、読んで貰っている。親族への年賀状のやり取りや、手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は木材を多く使用。天井は吹き抜けとなっており、開放的な空間となっている。又、に展示物や掲示物を職員と利用者で作成し、季節感を感じる事が出来る様に工夫を行っている。	空調設備も整い、共用の空間は木材を多く使用し、天井は吹き抜けで開放的であり清潔感が感じられる。展示物や掲示物は和やかで、落ち着いた雰囲気が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は、テーブル席やソファを配置し、それぞれ気の合った利用者同士と一緒に過ごせる様に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・ご家族と相談をしながら自宅で使用していた馴染みの物や大切な品・写真等を持ち込んで貰い、その人らしい生活空間となっている。これまでの生活習慣が継続出来、個々の生活スペースで居心地良く過ごせる様な環境作りを行っている。	本人・ご家族と相談をしながら、自宅で使用していた馴染みの物や大切な品・写真等を持ち込まれ、その人の生活が大切にされている。タンスや収納の整理が自立できるよう配置やラベル等の工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態に応じてベットの配置や高さ、持ち込んだ家具等の配置を行っている。居室以外の場所においては、認識違いや判断ミスが最小限になる様な工夫を行い、自立して生活が送れる様に配慮している。		